

カープを応援し続けるのはなぜか？

— カープファンを対象とした集団地位の効果の検討 —

○中川裕美¹・井川純一²・中西大輔³

(¹広島修道大学大学院人文科学研究科・²広島文化学園大学社会情報学部・³広島修道大学人文学部)

目的

本研究では、内集団ひいきの説明原理として提唱された社会的アイデンティティ理論 (SIT; Tajfel & Turner, 1979) と閉ざされた一般互酬仮説 (BGR; 清成, 2002) がそれぞれ成立する境界条件を特定し、実在集団における両理論の妥当性を検討する。内集団ひいきは SIT によると「集団間」の比較を通じて肯定的な自己観を獲得するために行われ、BGR によると「集団内」の内集団員からの互惠性を期待して行われる。

これまで、野球ファンを対象に援助行動を測定した結果、協力のコストを明示しないと SIT と BGR が支持され (中川・横田・中西, 2015), 明示すると BGR のみが支持された (中川・横田・中西, 準備中)。しかし、中川他 (準備中) では集団間の関係性に注目しておらず、SIT には不利な状況設定であった。従って、本研究ではコストのみならず集団地位 (集団間関係) が両理論の説明力を左右する要因になり得るかを検討した。高地位/低地位集団はそれぞれ内集団ひいきを行うことが明らかになっているが、低地位集団の内集団ひいきは、集団地位が変動する時にしか生じない (Scheepers, Spears, Doosje, & Manstead, 2006)。本研究で用いた野球チームの地位は、試合の勝敗で決まるため変動的である。従って、集団地位の低い時に内集団ひいきが生じると予測する。この予測から、集団地位の低いからこそ相手が内集団であれば協力的になるだろう (SIT 支持)。ただし、集団地位の高いときにも相手が内集団であれば協力的になるだろう (SIT 支持)。また、統制時には中川 (準備中) と同様に互惠性が期待できる状況のみ協力的になるだろう (BGR 支持)。

方法

広島市内の大学生 292 名のうちカープファン 81 名 (男性 47 名, 女性 33 名, 不明 1 名) を分析に用いた (平均年齢: 19.18 歳, $SD = 1.10$)。

知識操作 (within): 参加者と相手の所属集団の情報の有無で互惠性の期待を操作した。相互条件 (互いに相手が内集団だと分かる), 自知条件 (参加者のみ相手が内集団だと分かる), 不明条件

(互いに分からない) の 3 条件を設定した。

刺激 (between): カープの成績上昇を強調する記事を読ませる強い条件, 低迷を強調する弱い条件, カープと関係ない記事を読ませる統制条件の 3 条件を設定した。従属変数は第三者に対する援助行動, 援助期待であり, 5 件法で測定した (全 4 項目; 例. 電車の乗継ぎの仕方を教えると仕事の時間に遅れるが教えてあげるか否か)。

結果

援助行動における分散分析の結果, 所属集団が有意 ($F(2, 152) = 6.80, p < .01, \eta_p^2 = .09$) であり, 地位の主効果 ($F(2, 76) = 0.88, p = .42, \eta_p^2 = .02$), 交互作用は有意でなかった ($F(4, 152) = 1.17, p = .33, \eta_p^2 = .03$)。地位の刺激による効果が見られず, 本研究の予測は支持されなかった。従って, 刺激ごとの参加者を合算し検討したところ, 相互条件 ($M = 14.01$) と自知条件 ($M = 13.85$) が同程度, 不明条件 ($M = 13.38$) よりも協力的であり, SIT を支持する結果が得られた ($F(2, 156) = 7.56, p < .01, \eta_p^2 = .09$)。

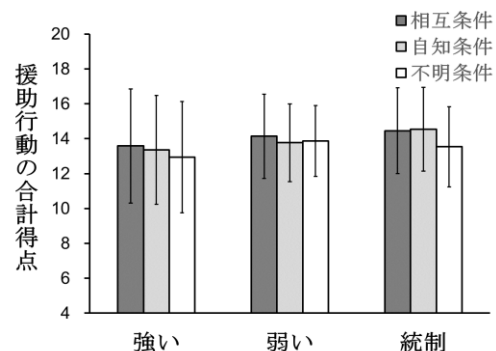


Figure 1. カープファンの援助行動 (刺激別)。

考察

集団地位の効果は見られず, カープファンの内集団ひいきは SIT が支持された。このことは, 実在集団の内集団ひいきには BGR の説明力が限定的で, 地位に関係なく SIT の効果が強いことが示唆される。ただし, 地位刺激に用いたプライミング技法は, 再現性に問題があるとの主張もある (藤島・樋口, 2016)。そこで, 次の研究では実際にチームが強い/弱い時にフィールドワークを行い, 整合性を高めていく必要があるだろう。